

1. 科目名 (単位数)	教育社会学特論 (2単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	EDMP5237 EDMP5314
2. 授業担当教員	【池袋】丹治 恭子 【名古屋】角替 弘規			
4. 授業形態	講義・討論		5. 開講学期	春期/秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	「教育社会学」は二通りの解釈をすることができる。一つは、教育について「社会学」という方法論を用いて研究するという狭義の教育社会学であり、もう一つは、社会の中における教育という対象を学問的に研究するという広義の教育社会学である。本講義では、まず前者の教育社会学で近年盛んに研究されているテーマを概観し、その後、教育という営為を社会のさまざまな領域や事象と関連させながら捉えなおしていくという後者の教育社会学へと展開させていく。			
8. 学習目標	1. 教育社会学の主要な研究テーマに精通する。 2. 各自の研究テーマを、教育社会学の観点から検討する。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメント：講義内で設定したテーマ (授業内研究課題) について共同または個々に調査研究に取り組む。 レポート：授業内研究課題について、レポートを学期末までに作成する。			
10. 教科書・参考書・教材	授業で扱うテーマに応じて、必要な文献資料を紹介する。 【参考書】 A.H.ハルゼー H.ローダー P.ブラウン A.S.ウェルズ『教育社会学—第三のソリューション』九州大学出版会、2005年。 A.ギデンス (松尾精文、小幡正敏訳)『近代とはいかなる時代か?—モダニティの帰結—』而立書房、1993年。 U.ベック (東廉、伊藤美登里)『危険社会』法政大学出版局、1998年。 久富善之・長谷川裕 (編)『教育社会学 (教師教育テキストシリーズ5)』学文社、2008年。 原清治ほか『教育の比較社会学』学文社、2004年。 飯田浩之・岡本智周 編著『教育社会学 (MINERVA はじめて学ぶ教職)』ミネルヴァ書房、2018年。 陣内靖彦ほか『教育と社会』学文社、2012年。 日本教育社会学会監修『学問としての展開と課題 (教育社会学のフロンティア 1)』岩波書店、2017年。 日本教育社会学会監修『変容する社会と教育のゆくえ (教育社会学のフロンティア 2)』岩波書店、2018年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 篠原正典『教育実践研究の方法 SPSS と Amos を用いた統計分析』ミネルヴァ書房、2016年。 A. H. Halsey (1997) <i>Education: Culture, Economy, and Society</i> . Oxford Univ Pr on Demand Bartlett, S. and Burton, D. M. (2012) <i>Introduction to Education Studies</i> (Third edition). Sage Publications. Murphy, L., Mufti, E., & Kassem, D. (2009) <i>Education Studies: An Introduction</i> . Open University Press.			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 教育社会学の主要な研究テーマに関心をもち理解を深めることができたか。 2. 各自の研究テーマを、教育社会学の観点から検討を試み、自身の研究視点を見つめ直すことができたか。 ○評定の方法 授業への参加姿勢 20% 発表 40% レポート 40%			
12. 受講生へのメッセージ	教育社会学が研究対象とする範囲は極めて広く、あらゆる教育事象を社会 (学) 的な観点から分析することが可能です。教育社会学の知見は、各自の研究テーマを発展させることにも大きく寄与するはずですので、授業内外で大いに勉強してください。			
13. オフィスアワー	担当教員が非常勤講師であるため、E-mail でアポイントメントを取ってください。			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	オリエンテーション：授業の進め方；教育社会学とはどのような学問か①；受講生の研究関心テーマの概要の報告			
【学習の目標】	教育を社会 (学) 的に研究するとはどういうことかを理解する。			
【学習の内容】	学問体系の歴史と広がり。			
【キーワード】	教育社会学・教育学・社会学			
【学習の課題】	学問のありようを理解する。			
【参考文献】	飯田浩之・岡本智周 編著『教育社会学 (MINERVA はじめて学ぶ教職)』ミネルヴァ書房、2018年。 陣内靖彦ほか『教育と社会』学文社、2012年。 日本教育社会学会監修『学問としての展開と課題 (教育社会学のフロンティア 1)』岩波書店、2017年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 久富善之・長谷川裕 (編)『教育社会学 (教師教育テキストシリーズ5)』学文社、2008年。 原清治ほか『教育の比較社会学』学文社、2004年。			
【学習する上での留意点】	教育社会学の特徴を押さえること。			

2 . テーマ	教育社会学とはどのような学問か②
【学習の目標】	社会の中における「教育」という対象を研究する教育社会学の重要概念について理解する。
【学習の内容】	社会変動・社会変容が教育に与えた影響①
【キーワード】	再帰的近代化・ポストモダニズム・社会階級と教育
【学習の課題】	教育と社会変容の関係を議論する。
【参考文献】	A.H.ハルゼー/H.ローダー/P.ブラウ/A.S.ウェルズ『教育社会学-第三のソリューション』九州大学出版会、2005年。 A.ギデンス（松尾精文，小幡正敏訳）『近代とはいかなる時代か？—モダニティの帰結—』而立書房、1993年。 日本教育社会学会監修『学問としての展開と課題(教育社会学のフロンティア 1)』岩波書店、2017年。
【学習する上での留意点】	社会の変容は教育にどのような影響を与えたのか、先行研究の分析の視点に留意する。
3 . テーマ	教育社会学とはどのような学問か③
【学習の目標】	社会の中における「教育」という対象を研究する教育社会学の重要概念について理解する。
【学習の内容】	社会変動・社会変容が教育に与えた影響②
【キーワード】	フォーディズム・ジェンダー・ポストコロナル
【学習の課題】	教育と社会変容の関係を議論する。「機会の平等」から「選択の拡大」へのパラダイムシフト。
【参考文献】	A.H.ハルゼー/H.ローダー/P.ブラウ/A.S.ウェルズ『教育社会学-第三のソリューション』九州大学出版会、2005年。 A.ギデンス（松尾精文，小幡正敏訳）『近代とはいかなる時代か？—モダニティの帰結—』而立書房、1993年。 飯田浩之・岡本智周編著『教育社会学 (MINERVA はじめて学ぶ教職)』ミネルヴァ書房、2018年。 日本教育社会学会監修『学問としての展開と課題 (教育社会学のフロンティア 1)』岩波書店、2017年。
【学習する上での留意点】	社会変化とともに教育は「機会の平等」から「選択の拡大」へと問題の焦点をシフトした。先行研究の分析の視点に留意する。
4 . テーマ	教育社会学とはどのような学問か④
【学習の目標】	社会の中における「教育」という対象を研究する教育社会学の重要概念について理解する。
【学習の内容】	社会変動・社会変容が教育に与えた影響③
【キーワード】	ニューライト・教育における市場改革
【学習の課題】	教育と社会変容の関係を議論する。ニューライトによる教育の再編。
【参考文献】	A.H.ハルゼー/H.ローダー/P.ブラウ/A.S.ウェルズ『教育社会学-第三のソリューション』九州大学出版会、2005年。 A.ギデンス（松尾精文，小幡正敏訳）『近代とはいかなる時代か？—モダニティの帰結—』而立書房、1993年。 日本教育社会学会監修『学問としての展開と課題 (教育社会学のフロンティア 1)』岩波書店、2017年。
【学習する上での留意点】	教育への市場競争の導入について、先行研究の分析の視点に留意する。
5 . テーマ	教育社会学における調査研究の在り方①
【学習の目標】	教育社会学的研究の先事例から学ぶ
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	教育問題をテーマとする調査研究計画を構想する。
【参考文献】	飯田浩之・岡本智周編著『教育社会学 (MINERVA はじめて学ぶ教職)』ミネルヴァ書房、2018年。 日本教育社会学会監修『学問としての展開と課題 (教育社会学のフロンティア 1)』岩波書店、2017年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 篠原正典『教育実践研究の方法 SPSS と Amos を用いた統計分析』ミネルヴァ書房、2016年。
【学習する上での留意点】	さまざまな調査研究の取り組みに触れ、研究目的・手法について自身の研究との関連について検討する。 先行研究は、学校・階層・マイノリティ・ジェンダー・教師と子ども・ライフヒストリー・非行と逸脱・教育改革・経済社会と教育・生涯学習社会など教育社会学の射程とする領域について代表的なトピックを中心に上げる
6 . テーマ	教育社会学における調査研究の在り方②
【学習の目標】	教育社会学的研究の先事例から学ぶ（前時から引き続き、トピックの紹介など行う）
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	教育問題をテーマとする調査研究計画を構想する。
【参考文献】	日本教育社会学会監修『学問としての展開と課題 (教育社会学のフロンティア 1)』岩波書店、2017年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 篠原正典『教育実践研究の方法 SPSS と Amos を用いた統計分析』ミネルヴァ書房、2016年。
【学習する上での留意点】	さまざまな調査研究の取り組みに触れ、研究目的・手法について自身の研究との関連について検討する
7 . テーマ	教育社会学における調査研究の在り方③
【学習の目標】	教育社会学的研究の先事例から学ぶ（前時から引き続き、トピックの紹介など行う）
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	教育問題をテーマとする調査研究計画を構想する。
【参考文献】	飯田浩之・岡本智周編著『教育社会学 (MINERVA はじめて学ぶ教職)』ミネルヴァ書房、2018年。 日本教育社会学会監修『学問としての展開と課題 (教育社会学のフロンティア 1)』岩波書店、2017年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 篠原正典『教育実践研究の方法 SPSS と Amos を用いた統計分析』ミネルヴァ書房、2016年。
【学習する上での留意点】	さまざまな調査研究の取り組みに触れ、研究目的・手法について自身の研究との関連について検討する。 トピックの他、研究方法、研究倫理に関する理解も深める

8. テーマ	教育社会学における調査研究の在り方④
【学習の目標】	教育社会学的研究の先行事例から学ぶ（前時から引き続き、トピックの紹介など行う）
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	教育問題をテーマとする調査研究計画を構想する。
【参考文献】	日本教育社会学会監修『変容する社会と教育のゆくえ（教育社会学のフロンティア 2）』岩波書店、2018年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 篠原正典『教育実践研究の方法 SPSSとAmosを用いた統計分析』ミネルヴァ書房、2016年。
【学習する上での留意点】	諸外国の教育事情や教育改革との比較から普遍性と共通性を明らかにする研究事例に触れること
9. テーマ	教育社会学における調査研究の在り方⑤
【学習の目標】	教育社会学的研究におけるデータの取り扱い
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	教育問題をテーマとする調査研究計画を構想する。 求められるデータについて収集方法から、分析方法について理解する。
【参考文献】	飯田浩之・岡本智周編著『教育社会学（MINERVAはじめて学ぶ教職）』ミネルヴァ書房、2018年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 篠原正典『教育実践研究の方法 SPSSとAmosを用いた統計分析』ミネルヴァ書房、2016年。
【学習する上での留意点】	量的・質的調査法導入時の課題について検討する
10. テーマ	教育社会学における調査研究の在り方⑥
【学習の目標】	教育社会学的研究におけるデータの取り扱い
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	教育問題をテーマとする調査研究計画を構想する。 求められるデータについて収集方法から、分析方法について理解する。
【参考文献】	日本教育社会学会監修『変容する社会と教育のゆくえ（教育社会学のフロンティア 2）』岩波書店、2018年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 篠原正典『教育実践研究の方法 SPSSとAmosを用いた統計分析』ミネルヴァ書房、2016年。
【学習する上での留意点】	収集データの分析と仮説の検証、混合研究法など事例から学ぶ
11. テーマ	教育社会学における調査研究の在り方⑦
【学習の目標】	教育社会学的研究におけるデータの取り扱い
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	研究成果の公表に関する検討
【参考文献】	飯田浩之・岡本智周編著『教育社会学（MINERVAはじめて学ぶ教職）』ミネルヴァ書房、2018年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 篠原正典『教育実践研究の方法 SPSSとAmosを用いた統計分析』ミネルヴァ書房、2016年。
【学習する上での留意点】	分析の技法（エスノグラフィ、ナラティブなど）とデータ管理について
12. テーマ	教育社会学における調査研究の在り方⑧
【学習の目標】	教育社会学的研究におけるデータの取り扱い
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	研究成果の公表に関する検討
【参考文献】	日本教育社会学会監修『変容する社会と教育のゆくえ（教育社会学のフロンティア 2）』岩波書店、2018年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 篠原正典『教育実践研究の方法 SPSSとAmosを用いた統計分析』ミネルヴァ書房、2016年。
【学習する上での留意点】	結果のとりまとめに着手することおよびその留意点について。内外の教育社会学関連学会について情報収集。研究会での発表を視野に入れた資料の構成など
13. テーマ	教育社会学における調査研究の在り方⑨
【学習の目標】	教育社会学的研究から得た示唆をまとめる
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	研究調査報告①（共同調査または教育社会学先行研究から得た学びについて報告する。）
【参考文献】	飯田浩之・岡本智周編著『教育社会学（MINERVAはじめて学ぶ教職）』ミネルヴァ書房、2018年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 篠原正典『教育実践研究の方法 SPSSとAmosを用いた統計分析』ミネルヴァ書房、2016年。
【学習する上での留意点】	共同調査研究から得た学びを、自身の修士論文に活かす。または、教育社会学における先行研究から得た示唆をまとめる

14. テーマ	教育社会学における調査研究の在り方⑩
【学習の目標】	教育社会学的研究から得た示唆をまとめる
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	研究調査報告②（共同調査または教育社会学先行研究から得た学びについて報告する。）
【参考文献】	日本教育社会学会監修『変容する社会と教育のゆくえ（教育社会学のフロンティア 2）』岩波書店、2018年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。 篠原正典『教育実践研究の方法 SPSS と Amos を用いた統計分析』ミネルヴァ書房、2016年。
【学習する上での留意点】	共同調査研究から得た学びを、自身の修士論文に活かす。または、教育社会学における先行研究から得た示唆をまとめる
15. テーマ	教育社会学特論のまとめ
【学習の目標】	教育社会学研究の社会的使命について理解する
【学習の内容】	教育社会学研究の成果と社会貢献
【キーワード】	ソフト・アカデミズム ハード・アカデミズム
【学習の課題】	本科目の学びを振り返る。
【参考文献】	受講生の知識と理解度に応じて決定する。
【学習する上での留意点】	修士論文構想について現時点での取りまとめをしておくこと